

清 帰るの学校が清掃活動
清掃活動で環境保全に対する意識向上

夏休み期間中に、保護者が留守になる家庭の児童を預かる、社会福祉協議会主催の「帰るの学校」が、8月8日に中央公民館周辺の清掃活動を行いました。参加した児童39人が約2時間をかけて、ボランティア袋4袋分の空き缶やペットボトルなどのゴミを収集。児童は「暑くて疲れたけど、きれいになってうれしい」と、満足そうに爽やかな汗を流していました。



↑自分たちが回収した大量のゴミを前にして、晴々とした表情を浮かべる児童たち。

↓今年の参加者は16人。子ども1人につき1人の職員がつくように配慮しています。



障 障がい児夏季休暇サポート事業
障がい児を抱える家族をサポート

社会福祉協議会主催の障がい児を対象とした夏休み期間中の学童保育が、8月1日～27日に実施されました。今年で2年目となるこの事業は、子どもたちの生活リズムの維持や健全育成を図り、家族の身体的、精神的負担を軽減する目的で行われています。保護者からは「来年も参加させたい」など、この事業で負担軽減につながった意見が多数寄せられました。

↓金田中と方城中の生徒が田川地区消防で実際にホースを握り、放水訓練を体験。



無 町内3中学校が職場体験実施
無限の可能性を秘めた将来を探る

目的や将来の展望がないまま、進学や就職する生徒を減らそうと、町内の3中学校が8月下旬から9月初旬にかけて職場体験を実施しました。生徒たちはコンビニや料理店など、59か所の事業所で、働くことの大変さや厳しさを体験。校舎を離れ、職場の支援や指導を受けて学んだこの体験は、近い将来直面する進路の壁を乗り越えるための、よい機会となったようです。

↓歌手・藤かおりさん本人の美声に合わせて、合併を機に制作された「福智音頭」などを披露した踊り手たち。



夜 第6回 福智町水と灯火の夕べ
夜空と胸に刻んだ夏の思い出

彦山川と中元寺川の合流点河川敷で、8月27日に「水と灯火の夕べ」が開催されました。平成4年から地域の人と人、人と水とのふれあいをテーマに実施され、合併後は福智町の一大行事として定着したこのイベント。町の中央にあたる会場には、浴衣姿の踊り手約150人が町内各地から集結し、やぐらを中心に人の輪をつくって4曲の総踊りを披露しました。その後、川辺で灯ろう流しと打ち上げ花火が行われ、800発の大輪の花が、過ぎゆく夏を惜しむかのように夜空と水面を照らしていました。

全 田中浩二さんと秦伸輔さんが昇段
全国審査の難関を2人の剣士が突破

全日本剣道連盟の審査会が8月27日から2日間、福岡市で開かれ、無双館剣道場（弁城）に通う剣道歴38年の田中浩二さんが7段、剣道歴33年の秦伸輔さんが6段にそれぞれ合格しました。今回の試験の合格率は、7段が約15%、6段が約23%という難関。全国審査の狭き門を突破し、周囲からは祝福の声が上がっています。2人は「これまで稽古を積んだ成果が実り、うれしい」と、昇段の喜びをかみしめていました。



←仕事の合間を縫い、週に3度は竹刀を握って稽古に励む田中浩二さん(左)と秦伸輔さん(右)。

多 弁城春田地区の「六夜様」
多彩な演目で伝統行事に花を咲かせる

弁城春田地区の「六夜様」が8月27日に行われ、地元住民がこの日のために練習してきた歌や踊り、ダンスなど24演目を披露しました。この六夜様は、昔の春田地区で難病が流行したときに、祭りを行って厄払いしたことがきっかけで始まって以来、その後数百年にわたって伝えられている伝統行事です。※この祭は福智町振興事業等補助金を活用して行われました。



↑ステージでは歓声やおひねりが飛び交うなど、最後まで熱気に包まれていました。

↓平和学習で訪れたひめゆりの塔では、沖縄戦の悲惨さを目の当たりにしました。



沖 福智町沖縄平和学習「少年の翼」
沖縄で平和の尊さを肌で感じる

今年で17回目を迎えた「少年の翼」は、沖縄県中城村の子どもたちと相互訪問し、交流を深めながら視野を広げる実行委員会主催の事業です。町内の小学5年～6年生32人が8月27日から2泊3日の日程で中城村でホームステイし、世界遺産の首里城や平和学習で沖縄戦の慰霊地を見学。子どもたちは独特の琉球文化や戦争の悲惨さを受け止めていました。